

成長を感じた

「なかよし遊び」

知立市立来迎寺小学校

三輪 教子

「二年生ってどんな遊びが好きかな。」

「私がやってみたら遊ばない遊びは、大根抜きでとつても楽しかったよ。」

「今まで、お兄さんたちが優しくしてくれたから、ぼくも優しくしてあげたい。」

異学年交流会「なかよし遊び」に向けての話し合いである。私のクラスは四年生。上学年となり、初めて計画を立てる立場になった。

今までは、通学班で上級生にわがまを言っていた子や自分の身の周りのことも十分にできていない子も、このときばかりは、お兄さんお姉さん気どりで、懸命に案をひねりだしていた。今まで上級生にしてもらったことを思い出しながら、楽しそうに話し合う姿に私の顔もほころんでしまう。

遊ぶ内容が決まると、今度は準備に取りかかった。話し合いでは、あまり意見が言えなかった子も、会での台詞を考えたり、二年生の役になって、問題点を話し合ったりと、それぞれが自分の個性を生かして精いっぱい参加している。全員が心を一つにして準備している姿が頼もしい。

そして迎えた「なかよし遊び」当日。

開始前にはとても緊張していた。

「準備はこれでよかったかな。」

「喜んでもらえるようがんばろう。」

と、お互いに言葉を掛け合い励まし合いながら、会を成功させようと気合いを入れていた。

最初は、おどおどしていた子どもたちも、いざ遊びが始まると、徐々に緊張もほぐれ、どのグループも自分たちのペースで会の進行をしていた。子どもたちを信じて任せることの大切さを感じた。

「遊んでくれてありがとう。」
「また遊んでね。」

と、ペア学年である二年生からの言葉に、どの子も満足気であった。

異学年交流を通して、一人ひとりが自信をもち、上級生としての自覚ができた実感した。このような時間を、これからも積極的に生み出していきたい。

